

平成 29 年度 第 3 回考古学講座

神奈川県発掘調査成果発表会 2017

◆ 日 時

平成 29 年 7 月 23 日 (日) 13:30 ~ 16:30 (開場 13:00 ~)

◆ 口頭発表

「船久保遺跡 第 3 次調査」(横須賀市)	—	1
石川 真紀 (株式会社 玉川文化財研究所)		
「西富岡・長竹遺跡 第 3 次調査」(伊勢原市)	—	3
麻生 順司 (株式会社 玉川文化財研究所)		
休憩		
「上粕屋・和田内遺跡 第 7 次調査」(伊勢原市)	—	5
中村 哲也 (株式会社 玉川文化財研究所)		
「西富岡・長竹遺跡 第 4 次調査」(伊勢原市)	—	7
渡部 裕司 (国際文化財株式会社)		
「上粕屋・石倉中遺跡 第 3 次調査」(伊勢原市)	—	9
植田 真 (株式会社 パスコ)		

◆ 紙上発表

「名越坂北やぐら群」(鎌倉市)	—	11
秋山 重美 (株式会社 玉川文化財研究所)		
「神成松遺跡 第 9 地点」(伊勢原市)	—	13
渡辺 務 (株式会社 アーク・フィールドワークシステム)		
「用田大河内遺跡」(藤沢市)	—	15
土本 医 (大成エンジニアリング株式会社)		
「桜畑遺跡 第 12 地点」(平塚市)	—	17
吉岡 秀範 (株式会社 アーク・フィールドワークシステム)		

会 場：かながわ県民センター 2 階ホール

主 催：神奈川県教育委員会 教育局 生涯学習部 文化遺産課
中村町駐在事務所 (神奈川県埋蔵文化財センター)

ふなくぼ
船久保遺跡 第3次調査

所在地 横須賀市林5丁目 1649 他
調査期間 平成 28 年 3 月 28 日～7 月 15 日
調査面積 約 1,625 m²
調査組織 株式会社玉川文化財研究所
担当者 前川昭彦・石川真紀
調査概要 船久保遺跡は、三浦半島中央部の西海岸域にあり、三浦市との市境に近い横須賀市南西部に位置しています。遺跡は標高 30～40m の起伏に富んだ丘陵上に立地し、眼下には小田和湾が見渡せます。今回の調査は、第 1 次・第 2 次調査区の南側に隣接し、南西に開く埋没谷を挟んだ東西の丘陵面が調査区となっています。



第 1 図 遺跡位置図 (1/50,000)

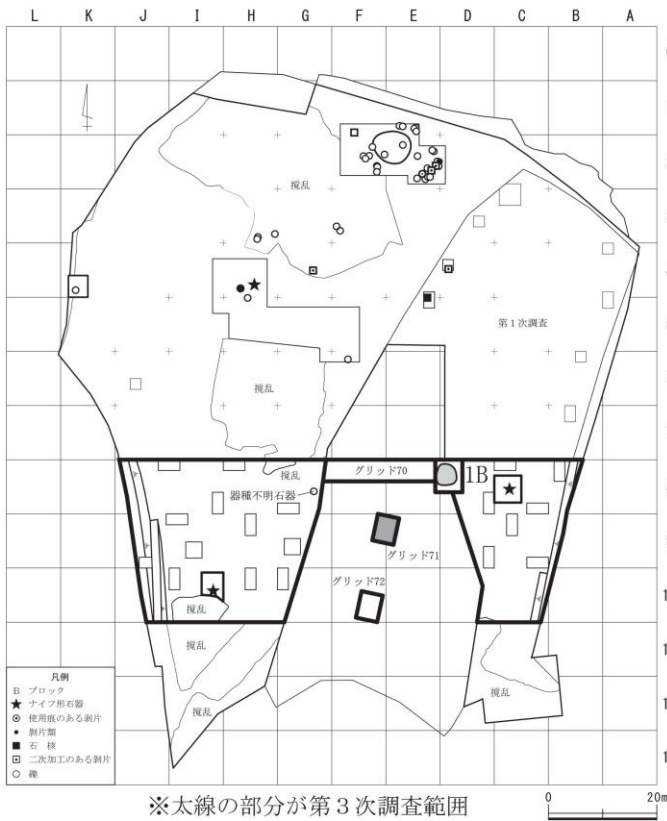
昨年度までに実施された旧石器時代の調査では、相模野 B1～L5 層に相当する各層から石器が数多く出土しており、4 時期の文化層が確認されています。また第 2 次調査では、始良^{あいら}Tn 火山灰 (AT) 降灰以前 (約 29,000 年前) の土坑状の土壤変質部 (シミ) の存在が埋没谷の縁辺に沿うように 14 ヲ所で確認されました。

今回報告する第 3 次調査では、相模野 B3L～B4U 相当層を検出面とする陥し穴状土坑が 2 基発見されました。平面形は開口部が隅丸長方形をしており、底部付近では四隅が鋭角に張り出す特徴があります。規模は PRE13 号土坑が 98×76 cm で、深さが 134 cm。PRE14 号土坑は 82×60 cm で、深さが 103 cm です。覆土は 2 基とも相模野 B3U 層に類似する黒褐色土が互層に堆積し、最上層には相模野 L3 層に類似する黄褐色土が斑紋状に堆積していたことから、この 2 基の陥し穴状土坑は同時性が高いと考えられます。なお、四隅が張り出した土壤変質部は、第 2 次調査でも 3 ヲ所で確認されており、同様の形態的特徴をもつ陥し穴状土坑の可能性が考えられます。

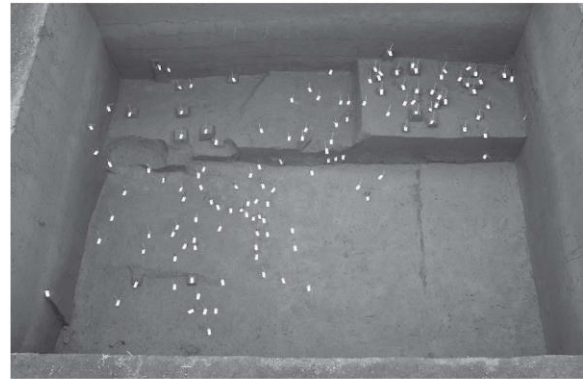
相模野 B4L 相当層では、谷戸の底部付近から石器ブロックが 1 ヲ所発見され、スクレイパーや加工痕のある剥片など 8 点の石器が 3 m 程の範囲に散漫な状態で分布していました。また、台形様石器の可能性のある黒曜石製のナイフ形石器が 1 点単独で出土しています。

一方、谷戸の地形復元を目的としたグリッド調査では、谷戸の底部から石核や剥片類が合計 124 点出土しました。石器は風化した流紋岩の剥片類が主体で、相模野 B4～L5 相当層にかけて出土している状況が確認されています。

まとめ 今回の調査では、AT 火山灰降灰以前の陥し穴状土坑が 2 基発見されたほか、谷戸の底部付近では相模野 B4 相当層から石器ブロックを含む多数の石器群が出土しました。旧石器時代の陥し穴状土坑の発見例は、本遺跡のある三浦半島や静岡県^{あしたか}の愛鷹山麓など太平洋側の一部の地域に限られています。また相模野 B4 相当層のようなローム層下部へ調査が及ぶことも少ないことから、貴重な発見と言えます。(石川真紀)

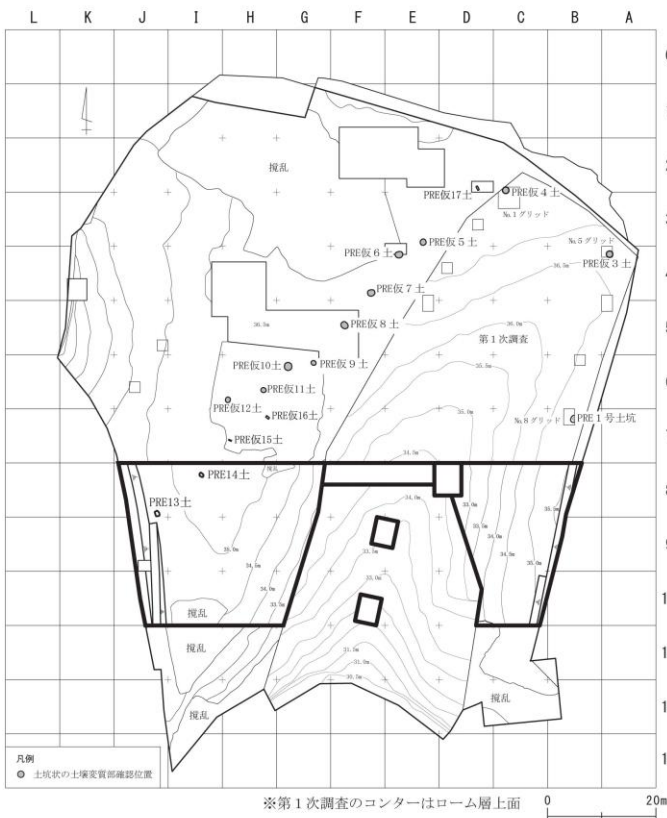


相模野B4L相当層 1号ブロック



グリッド71石器出土状況

第2図 相模野B3~B4層遺構分布図 (1/1,500)



陷し穴状土坑検出状況



陷し穴状土坑 (PRE13号土坑) 土層断面

第3図 陷し穴状土坑および土坑状の土壤変質部分分布図 (1/1,500)

西富岡・長竹遺跡 第3次調査

所在地 伊勢原市西富岡 981-13 他
調査期間 平成 28 年 9 月 25 日～継続中
調査面積 1,649 m²
調査組織 株式会社玉川文化財研究所
担当者 麻生順司・小池 聡
調査概要 本遺跡は小田急小田原線伊勢原駅の北西約 3 km に位置します。地勢的には丹沢山塊の東端に位置する大山の東麓にあたり、上粕屋扇状地を縦断する渋田川支流の左岸に立地します。昨年度の発表では第 2 次調査として行った旧石器時代までの調査成果について発表していますので、今回の発表では旧石器時代の追加調査として行われた第 3 次調査について報告します。



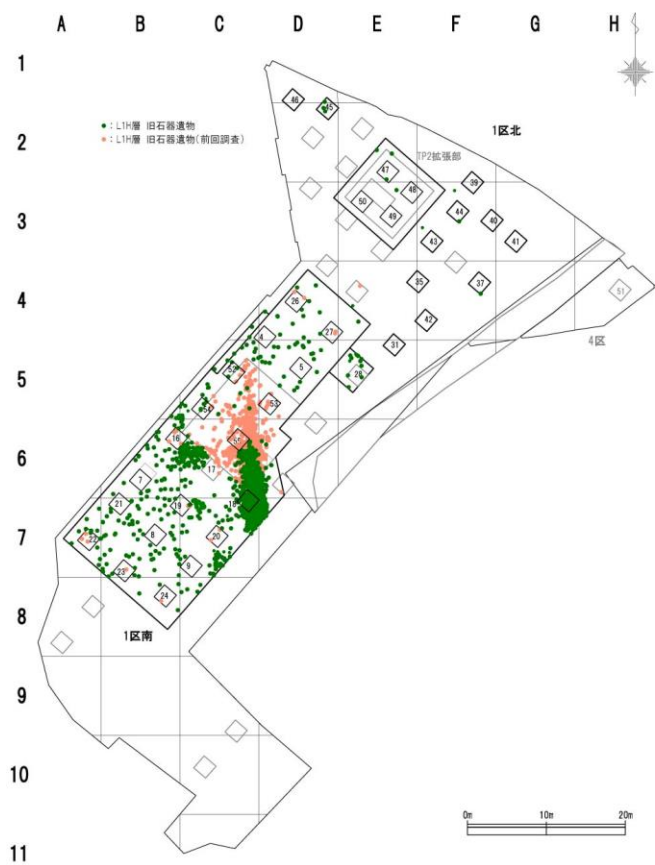
第 1 図 遺跡位置図 (1/50,000)

旧石器時代 第 2 次調査で確認された L1H 上部文化層の遺物群は、今回の第 3 次調査によって調査区のはほぼ中央部を中心に広がりが認められ、第 2 次調査も含めて合計 3,000 点近くの遺物が出土しています。遺構としては石器集中部が大きく 3 ヲ所、大形礫を配置した配石が 1 基確認されました。特に前回の発表で 1 号遺物集中部とした遺構は今回の調査によってさらに南側への分布が確認され、長さ 20m を超える帯状の遺物密集部であることが判りました。また、遺物集中部の下層には台石状の大形礫が配置されたような状況も見られています。出土した遺物の特徴としては、細石刃石器群と槍先形尖頭器石器群が同一遺物集中部から重複した状態で検出されたことが最も大きな点としてあげられます。細石刃石器群は、その中でも最古級に位置づけられる「代官山型細石刃技法」(砂田 1986*) を大きな特徴としている石器群です。一方、槍先形尖頭器は、安山岩やホルンフェルスの特徴的に用いたやや大きめの尖頭器と安山岩や珪質頁岩を用いたやや小形で柳葉形をした尖頭器の二種類が見られています。

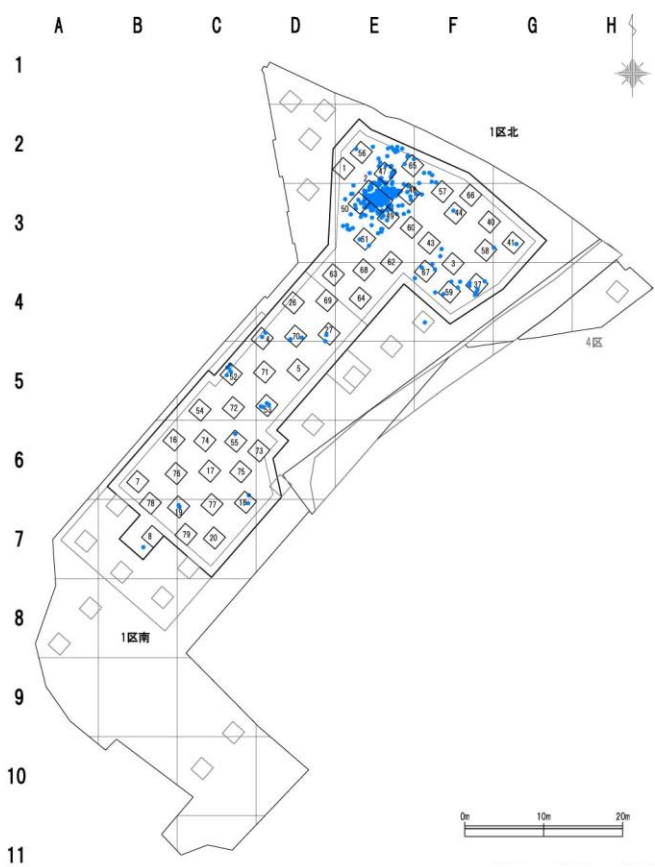
次に、下層の B1 層からは調査区の北東側を中心に 700 点程の遺物が集中して出土しました。遺構としては石器集中部が 1 ヲ所、礫群が 2 基確認されています。2 基の礫群は石器集中部に隣接して発見されており、同時期に関連を持って残されたものと考えられます。石器集中部は透明度の高い黒曜石を主体としたもので、石器の特徴としては小形のナイフ形石器がまとまって確認されています。

まとめ 西富岡・長竹遺跡の第 3 次調査は現在も継続中であり、試掘調査によって B2 層からも遺物の出土が確認されていることから、今後の調査も注目されます。(麻生順司)

*砂田住弘 1986 『代官山遺跡』神奈川県立埋蔵文化財センター調査報告 11



第2図 L1H層遺物分布図



第3図 B1層遺物分布図

硬化面を伴う古代段切り状遺構の発見

かみかすや わだうち

上粕屋・和田内遺跡 第7次調査

所在地 伊勢原市上粕屋地内

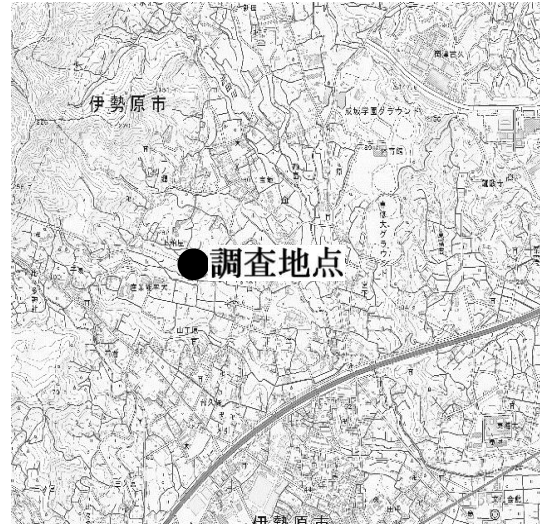
調査期間 平成28年3月15日～8月1日

調査面積 681 m²

調査組織 株式会社玉川文化財研究所

担当者 中村哲也・伊藤貴宏

調査概要 今回の調査は、県道603号（上粕屋厚木）道路改良工事に伴う事前調査として実施されました。遺跡は伊勢原市中央部の上粕屋扇状地に位置し、洪田川支流小河川により開析された小支谷の北側斜面部に該当します。小河川は遺跡の南方約50mを東流します。調査の結果、近世後半以降、中世～近世前半、古墳時代後期～奈良・平安時代に属する遺構と遺物を検出しました。また、



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

古墳時代後期以降の遺構覆土および表土層から弥生時代後期～古墳時代前期の土器、縄文時代前～後期の土器・石器もわずかに出土しましたが、遺構は発見されませんでした。

近世後半以降 溝状遺構3条、ピット3基を検出しました。溝状遺構はいずれも東西方向を示します。遺物は国産磁器（肥前・瀬戸・美濃）などが出土しました。

中世～近世前半 段切り状遺構3カ所、井戸址1基、土坑3基、ピット列2列、ピット28基を検出しました。段切り状遺構1カ所（C1号）とピット列は南北方向、段切り状遺構2カ所（C2・3号）は東西方向を示します。出土遺物は、舶載磁器（中国産白磁、龍泉窯系青磁）、国産陶器（山茶碗窯系、常滑、瀬戸・美濃）、北宋銭（皇宋通寶）などがみられます。

古墳時代後期～奈良・平安時代 竪穴住居址5軒、竪穴状遺構1基、掘立柱建物址1棟、段切り状遺構1カ所、土坑3基、ピット25基を検出しました。遺構の分布状態は、調査区中央以北の斜面上部～中腹には竪穴住居・竪穴状遺構・掘立柱建物址などで構成される居住域が展開し、中央以南の斜面下方には土地造成の痕跡と推定される段切り状遺構が位置します。さらに、段切り状遺構内では東西方向の平場4段、溝状遺構6条、硬化面1カ所、遺物集中2カ所を検出しました。段切り状遺構の性格については、河川沿いの斜面地に形成された通路と、排水を主目的とした溝状遺構群と推定されます。出土遺物は、土師器、須恵器、灰釉陶器、緑釉陶器、土製品、木製品、石製品、鉄製品、種子類、獣骨など多種多様で、とくに8世紀中～後葉に属する相模型土師器坏類の比率が卓越します。また、墨書土器は2点、線刻土器は21点を数えます。なお、今回の調査における出土遺物の大半は本時期に属します。

まとめ 今回の調査では、近世後半以降、中世～近世前半、古墳時代後期～奈良・平安時代に属する遺構群が重層的に発見されました。とくに古墳時代後期～奈良・平安時代の調査成果は、河川に面した斜面地の土地改変状況の一端を示す資料と推定されます。（中村哲也）

西富岡・長竹遺跡 第4次調査

所在地 伊勢原市西富岡地内

調査期間 平成28年8月4日～29年2月22日

調査面積 1,039 m²

調査組織 国際文化財株式会社

担当者 荻澤太郎・渡部裕司

調査概要 本調査は、平塚土木事務所による県道603号（上粕屋厚木）の道路改良工事に伴う事前調査です。本遺跡は小田急小田原線伊勢原駅の北西約3kmに位置します。地形的には丹沢山系大山東麓に位置し、渋田川とその支流に挟まれた尾根上に立地しています。

近世 調査区南西側を中心に、溝状遺構やピットが見つかっています。溝状遺構は、調査区の立地する斜面の傾斜に沿って平行あるいは直行するように配置されています。遺物は、江戸時代初頭から明治時代にかけての、主に肥前産や瀬戸・美濃産の陶磁器、砥石などの石製品が出土しています。

中世 掘立柱建物跡、溝状遺構が見つかっています。掘立柱建物跡の柱穴からは、五輪塔の一部である空風輪や石塔の台座が埋納された状態で見かっています。溝状遺構からは、わずかですが中国から輸入された青磁（碗・皿）も出土しています。

平安時代 台地の縁辺部にあたる調査区中央部で、竪穴住居址が1軒見かっています。遺構内からは、壺・甕・羽釜など、土師器・須恵器・灰釉陶器の破片が出土しています。これらの出土遺物から、竪穴住居址は10世紀半ばから後半にかけて使用されていたと推測されます。

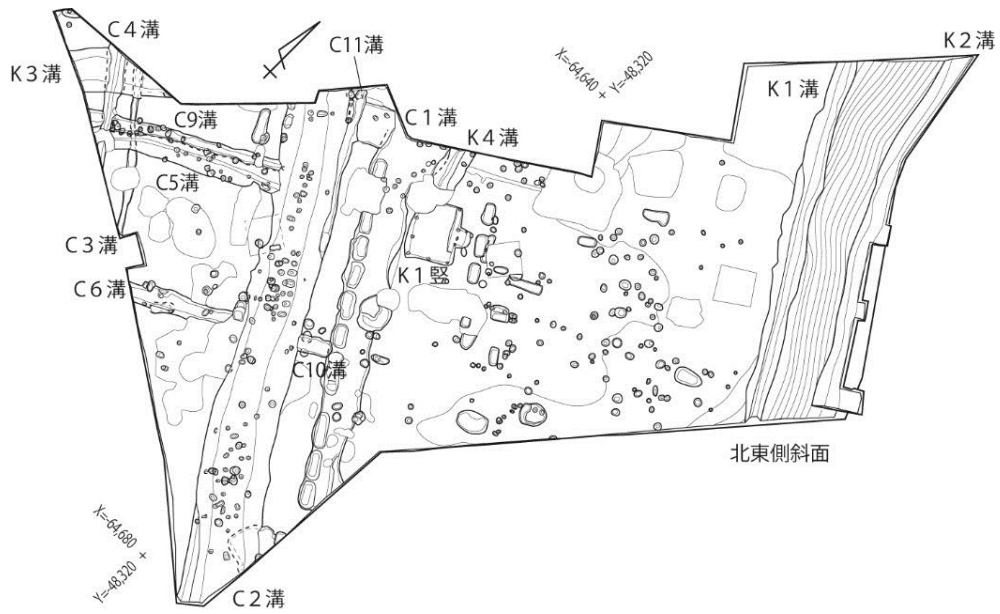
縄文時代 北東側の斜面部では、中期から後期にかけての土器・石器が出土しています。これらは南西側の頂部から流れ込んだ遺物と推測されます。遺物が出土した層や無遺物層を取り除くと、陥し穴状土坑群が見つかっています。これらの土坑は狩猟目的で掘られた穴と考えられ、本調査地点の南西に隣接する第2次調査区でも、同様の遺構群が見つかっています。

旧石器時代 第2・3次調査区では、多数の石器が出土していますが、本調査地点においては、当該時期の遺物は出土しませんでした。遺跡全体を地形的に見ると、南西方向に傾斜する斜面上で石器群が出土しており、今回の調査範囲である北東斜面側は、石器の製作・使用の場としては適していなかったと推測されます。

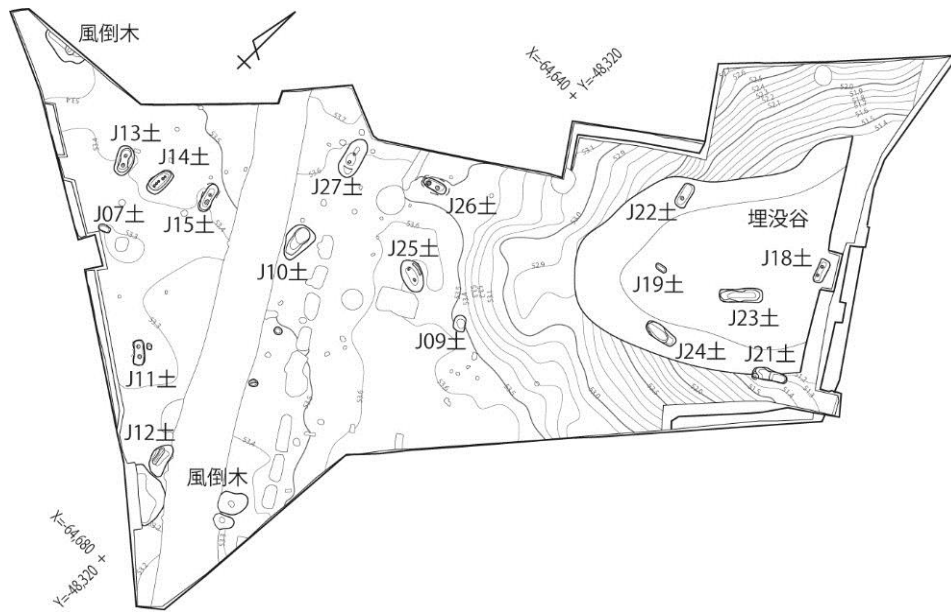
まとめ 今回の第4次調査では、中世・近世の遺構を中心に平安時代、縄文時代の遺構・遺物が発見されました。特に近世では、17世紀以降現在に至るまで、継続的に人が居住していた状況が明らかとなりました。また縄文時代については、過去の調査も含め、多数の陥し穴状土坑が見つかっていることから、居住の場ではなく、狩猟に適した環境が広がっていたと推測されます。（渡部裕司）



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)



第2図 近世遺構配置図 (1/500)



第3図 縄文時代中期以前遺構配置図 (1/500)



写真1 竪穴住居址 (H1住) 平安時代



写真2 陥し穴状土坑 (J18土) 縄文時代

かみかすや いしくらなか
上粕屋・石倉中遺跡 第3次調査

所在地 伊勢原市上粕屋地内

調査期間 平成28年11月14日～29年3月31日

調査面積 総面積766㎡

調査組織 株式会社パスコ

担当者 園村維敏・植田 真

調査概要 本遺跡は丹沢山塊東端霊峰大山の東側にあり、鈴川と渋田川支流に開析された上粕屋扇状地の頂部付近に位置しています。調査区はA・B・Cの3区に分かれ、旧石器時代から近世以降までの遺構と遺物が出土しました。

近世 【近世土坑27基、道路跡2基、竪穴状遺構2基、溝跡5基、畝状遺構1基】A区では広がりのある硬化面や屋敷境とも考えられる植栽痕列、

B区では馬屋のような建物跡や小礫を伴う硬化面のある道路跡、C区では近代から近世の道路と考えられる硬化面や石積のある溝跡を検出しました。各区では瀬戸・美濃系、肥前系の陶磁器などが出土していて、陶器では志戸呂産の燈明皿や明石産の播鉢などが出土しています。

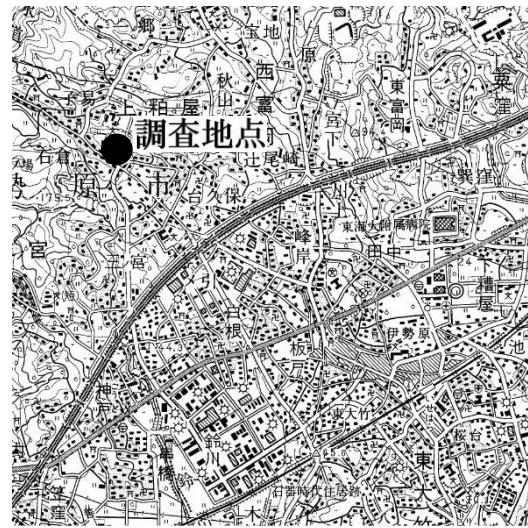
中世 【中世土坑4基、溝状遺構2基】A区では調査区北東壁際で道路状の硬化面と溝跡が検出されました。溝跡の覆土からは「開元通寶」「元祐通寶」の銭貨2枚が出土しています。B区では五輪塔と宝篋印塔の一部とみられる石造物2点が出土しています。

古代 【古代土坑14基、ピット列1基】A区で等間隔に並ぶピット4基を検出しています。

縄文時代 【土坑7基】土坑7基が検出されましたが、遺物は含まれていませんでした。包含層から出土した土器は破片ばかりで50点ほどでした。早期撚糸文・押し型文、中期勝坂式、後期堀之内I式・加曾利B2式などが出土しています。石器では打製石斧、磨石などが出土しています。

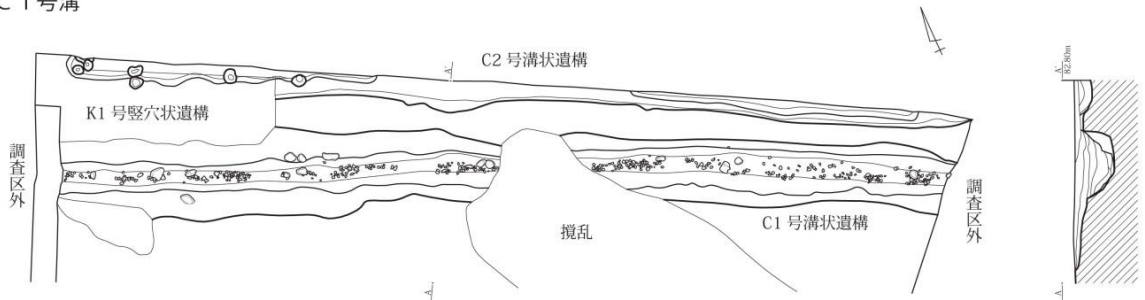
旧石器時代 【黒曜石剥片・碎片類149点】C区の旧石器時代トレンチで、BB1層（約22000年前）から黒曜石を主体とする2か所のブロック（遺物集中箇所）が確認され、149点の剥片・碎片を検出しました。同じブロックからは炭化物も出土しています。

まとめ B・C区では現在の大山道と並行して、近世から近代に利用された道路跡と溝跡が検出されました。道路としての硬化面は複数面あり、長期間利用されています。A区で検出された中世の溝跡と道路状の硬化面は、やや離れた場所で時代も遡りますが、並行する大山道との関係を伺うことができます。B区は近代まで存続した自性寺の参道口に当たり、出土した五輪塔や宝篋印塔などは寺との関係を想像させます。C区で出土した黒曜石剥片のうち、分析可能な66点を蛍光X線分析で産地同定を行った結果、箱根産の黒曜石が1点あり、他は長野産であることが判りました。同じブロックで出土した炭化物についても現在年代測定分析中で、今回の出土資料はわずかでしたが、年代が特定できる時期に、遠隔地から供給された石材消費の様子を伺う資料として注目されます。（植田真）

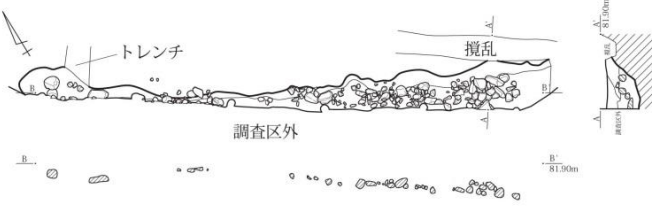


第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

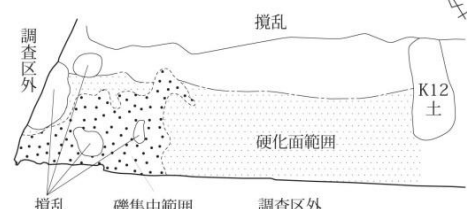
C 1 号溝



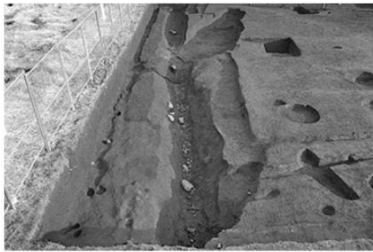
K 2 号溝



K 1 号道路



0 [1/160] 4m



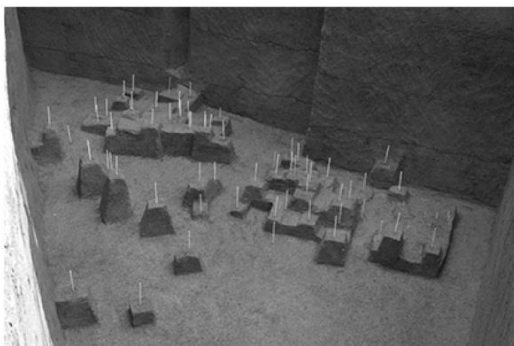
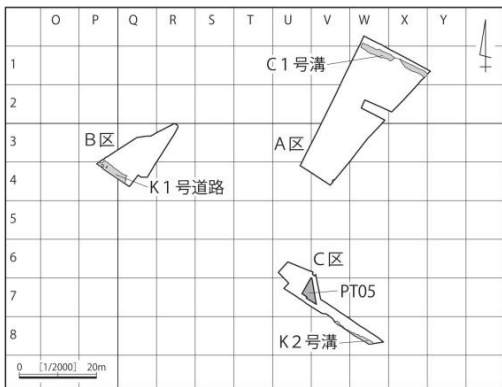
C 1 号溝礫検出状況



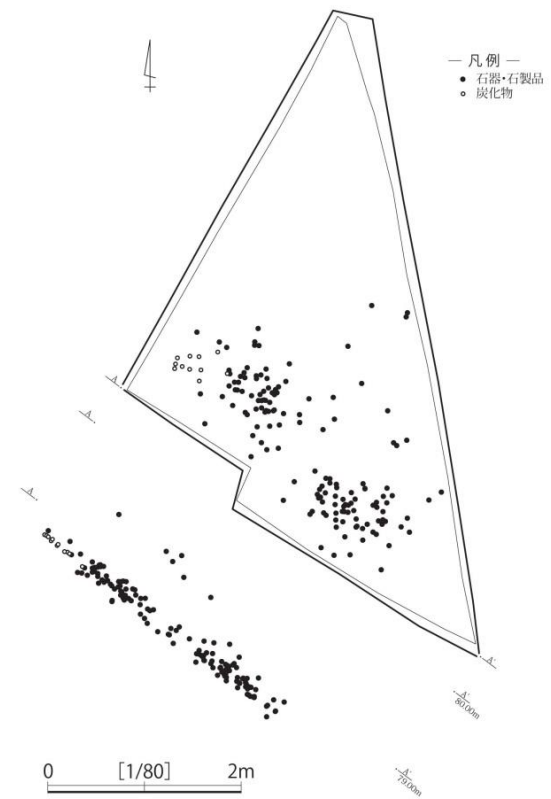
K 2 号溝礫検出状況



K 1 号道路礫集中範囲検出状況



C 1 号溝礫検出状況



第2図 上粕屋・石倉中 第3次調査

大型五輪塔を有するやぐらの調査

なごえさかきた 名越坂北やぐら群

所在地 鎌倉市大町五丁目 1988-2 ほか

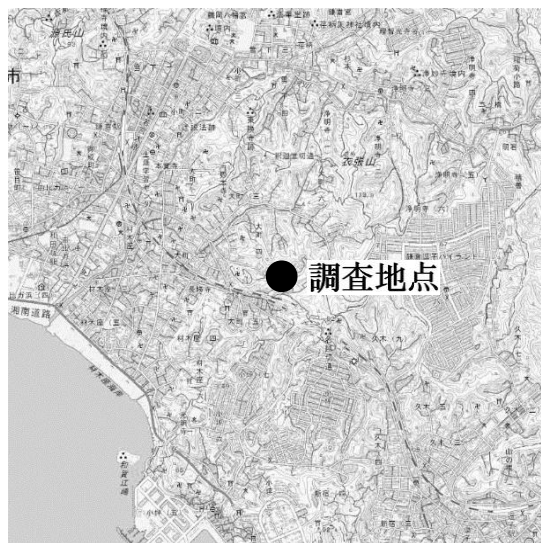
調査期間 平成 28 年 2 月 22 日～4 月 8 日

調査面積 12 m²

調査組織 株式会社玉川文化財研究所

担当者 秋山重美・齊藤武士

調査概要 本やぐら群は JR 横須賀線鎌倉駅から南東約 1.4 km に位置し、南側を通る県道から逗子方面へ抜ける隧道上には国指定史跡の『名越切通』があります。調査は神奈川県藤沢土木事務所による急傾斜地崩壊対策工事予定地内での本格調査として実施し、同予定地内の斜面部に未発掘のまま保存されていたやぐら 5 基についても、今回の調査で同一やぐら群に登録されました。

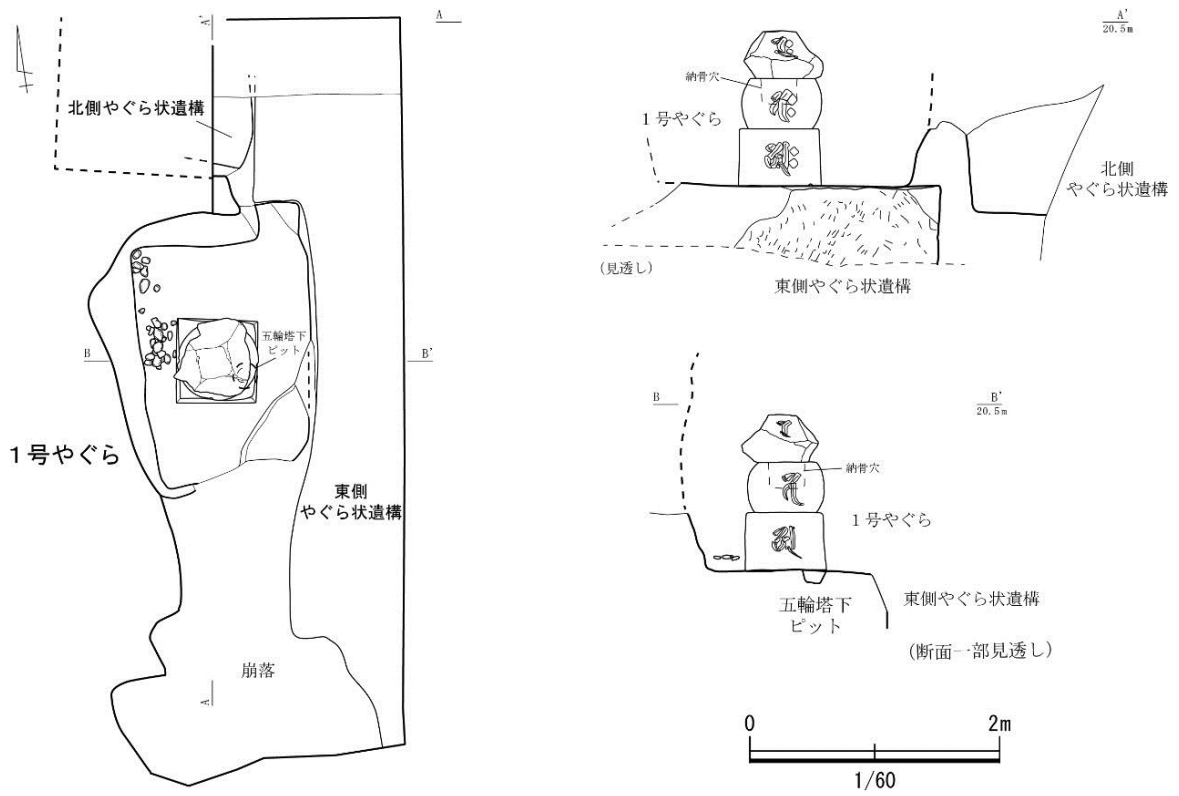


第 1 図 遺跡位置図 (1/50,000)

今回の調査では、やぐら 1 基 (1 号) とやぐら状遺構 2 基が検出され、遺物は 1 号やぐらから五輪塔 1 基分 (火輪・水輪・地輪各 1 点)、火葬人骨 1 体分 (熟年男性)、貝類 938 点、玉石 106 点、やぐら状遺構からは施釉陶器三耳壺と焼締陶器甕の小片が出土しました。

1 号やぐら 天井部と南壁が崩落し、東側と北側が別遺構によって失われて、本来の形状を保っていません。検出規模は南北幅 1.94m、東西長 1.40m を測ります。後述する五輪塔の梵字が示すやぐらの開口部は南側と考えられるのですが、やぐらの南側からは前面施設等が発見されなかった地形上の立地から見れば、東側が開口部と考えられます。やぐらのほぼ中央には、凝灰質砂岩製 (通称：鎌倉石) の五輪塔 1 基 (火輪以下遺存、空風輪欠落) が組み上がった状態で出土しました。五輪塔の大きさは、火輪が最大幅 62 cm、水輪が最大径 65 cm、地輪が最大幅 65.5 cm、現状の高さは 127 cm を測り、大型の部類に含まれる石塔といえます。火輪には欠損が認められましたが、地輪と水輪は完形品で、すべての石塔四面に梵字が葉研彫りされていました。梵字の組み合わせは上下で一致し、東方を示す種字は南側に向いていました。水輪の上部中央には直径 30 cm、深さ 21.5 cm の円筒状の納骨穴が穿たれ、内部に熟年男性の火葬人骨 1 体分が納められていました。また地輪直下のやぐら底面には、直径 21 cm、深さ 6 cm の小穴が穿たれており、内部から玉石 3 点と貝殻 9 点が出土しました。

まとめ 特筆される点は 1 号やぐらから検出された五輪塔です。上述のように現状で高さ 127 cm を有し、想定される空風輪の高さを含めると全体は 175 cm 前後の総高が推測され、神奈川県内で調査された凝灰岩質砂岩の五輪塔としては最大級に数えられます。このことから水輪内に納骨された熟年男性は、本やぐら群内の被葬者の中でも有力な階層に属する人物と考えられます。(秋山重美)



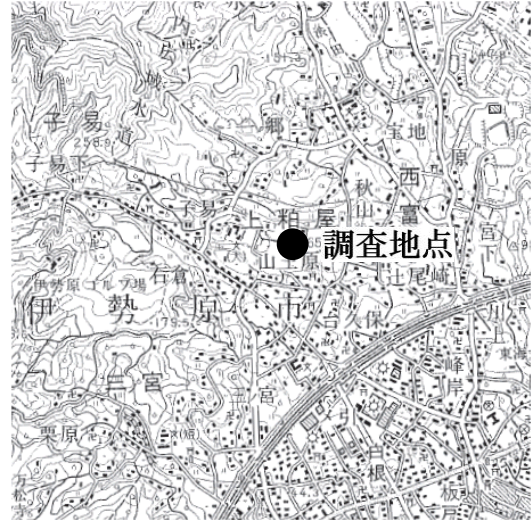
第2図 1号やぐら (1/60)



写真1 1号やぐら五輪塔全景 (東から)

神成松遺跡 第9地点

所在地 伊勢原市上粕屋字神成松 2841-1 他
調査期間 平成 28 年 4 月 18 日～7 月 6 日
調査面積 268 m²
調査組織 (株)アーク・フィールドワークシステム
担当者 渡辺 務・柳川清彦
調査概要 調査は、県道 603 号（上粕屋厚木）の道路改良工事に伴う事前の記録保存調査として実施しました。神成松遺跡の調査は今回で 9 回目となり、近世以降、中世、奈良・平安時代、古墳時代前期、縄文時代の各種遺構が見つかりました。調査区は 2 か所に分かれ、南西側の 1 地点は伊勢原市道 88 号線、北東側の 2 地点は伊勢原市道 662 号線部分にあたります。



第 1 図 遺跡位置図 (1/50,000)

近世以降 土坑、溝状遺構、集石、道状遺構などを検出しました。溝状遺構は道状遺構の硬化面の両側に平行するように掘られており、側溝の役割があったものと推測されます。道状遺構は 1・2 地点調査区共に現道の下から複数の硬化面を伴って確認されています。1 地点調査区で検出された K 2 号道状遺構は宝永火山灰の純層と二次堆積層に全面が覆われていました。K 1 号道状遺構からは 18 世紀末から 20 世紀にかけての陶磁器類が、また K 2 号道状遺構からは 17 世紀後半から末頃にかけての陶磁器類が出土しました。

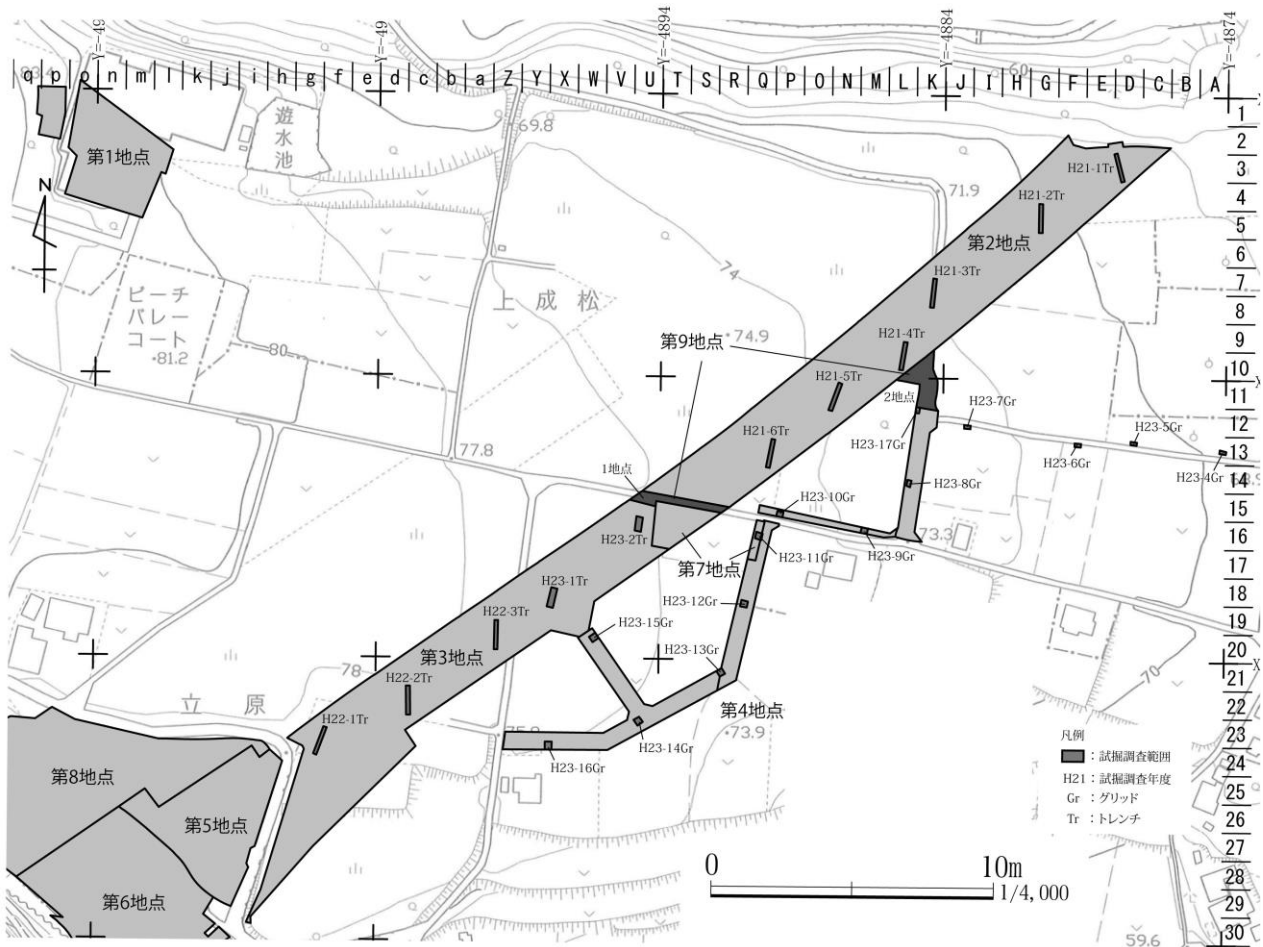
中世 溝状遺構などを検出しました。溝状遺構は 1 地点調査区に接する第 3・7 地点調査区から延びてきている同一遺構でした。遺物の出土はありませんでした。

古墳時代～奈良・平安時代 土坑などを検出しました。土坑の一部はいわゆる円形土坑と呼ばれているものにあたります。遺物は僅かに土師器や須恵器が出土しただけでした。

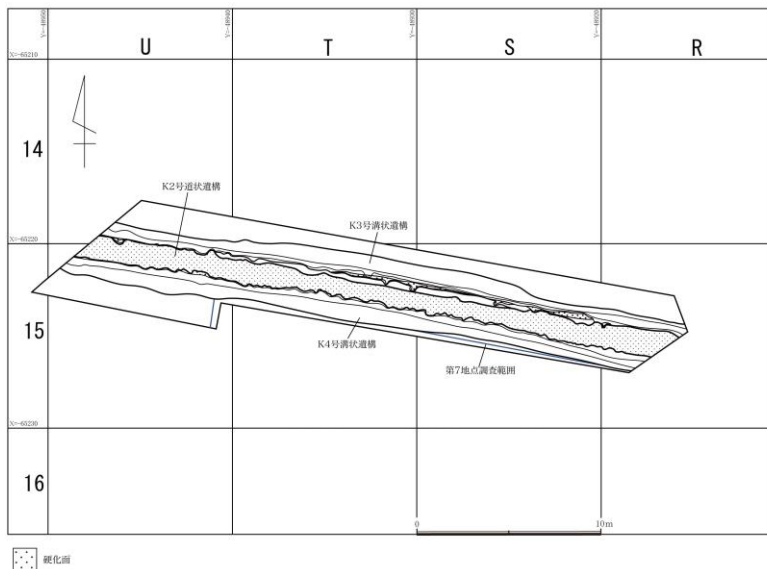
縄文時代 1 地点調査区を主体に土坑などを検出しました。土坑のうち 2 基は陥し穴と推定され、J 6 号土坑は土層断面で確認できた深さが 176 cm と深いものでした。また J 8 号土坑は底面に小ピットが 1 口掘り込まれていました。遺物の出土は、包含層中から草創期の所産と考えられる石斧 1 点と、中期前半から中頃にかけての土器と石器が出土しました。

まとめ 調査で注目される遺構は、近世以降とした道状遺構 2 条があります。K 1 号道状遺構からは中世陶器の出土もあり、その初現は中世まで遡り得るものと推定されます。また K 2 号道状遺構は 1 m 前後の掘り込みを伴う、しっかりとした造りをしていました。こちらも初現は中世まで遡る可能性があります。出土遺物では 1 地点調査区の縄文時代遺物包含層から出土した縄文時代草創期の所産と推定される^{みこしば}神子柴型の打製石斧未製品 1 点が注目されます。本調査地点の南西約 200m に近接する第 5 地点で該期の遺物の出土が報告されており、その関連も推定されます。

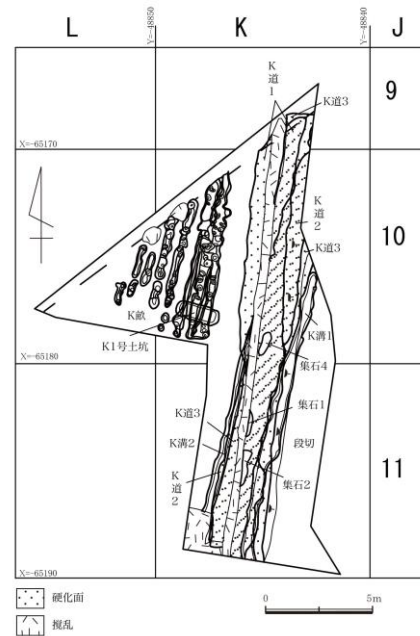
(渡辺 務)



第2図 調査地位置図 (1/4,000)



第3図 1地点近世以降全体図 (1/400)



第4図 2地点近世以降全体図 (1/400)

用田大河内遺跡

所在地 藤沢市用田 1509-1・1511-1

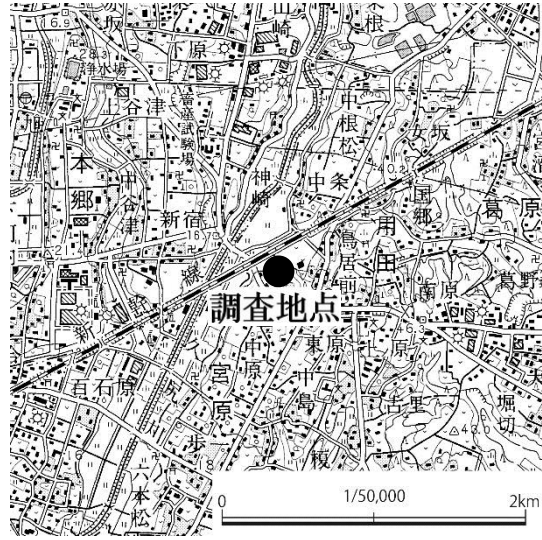
調査期間 平成 29 年 1 月 4 日～3 月 3 日

調査面積 172.22 m²

調査組織 大成エンジニアリング株式会社

担当者 土本 医・吉田好孝

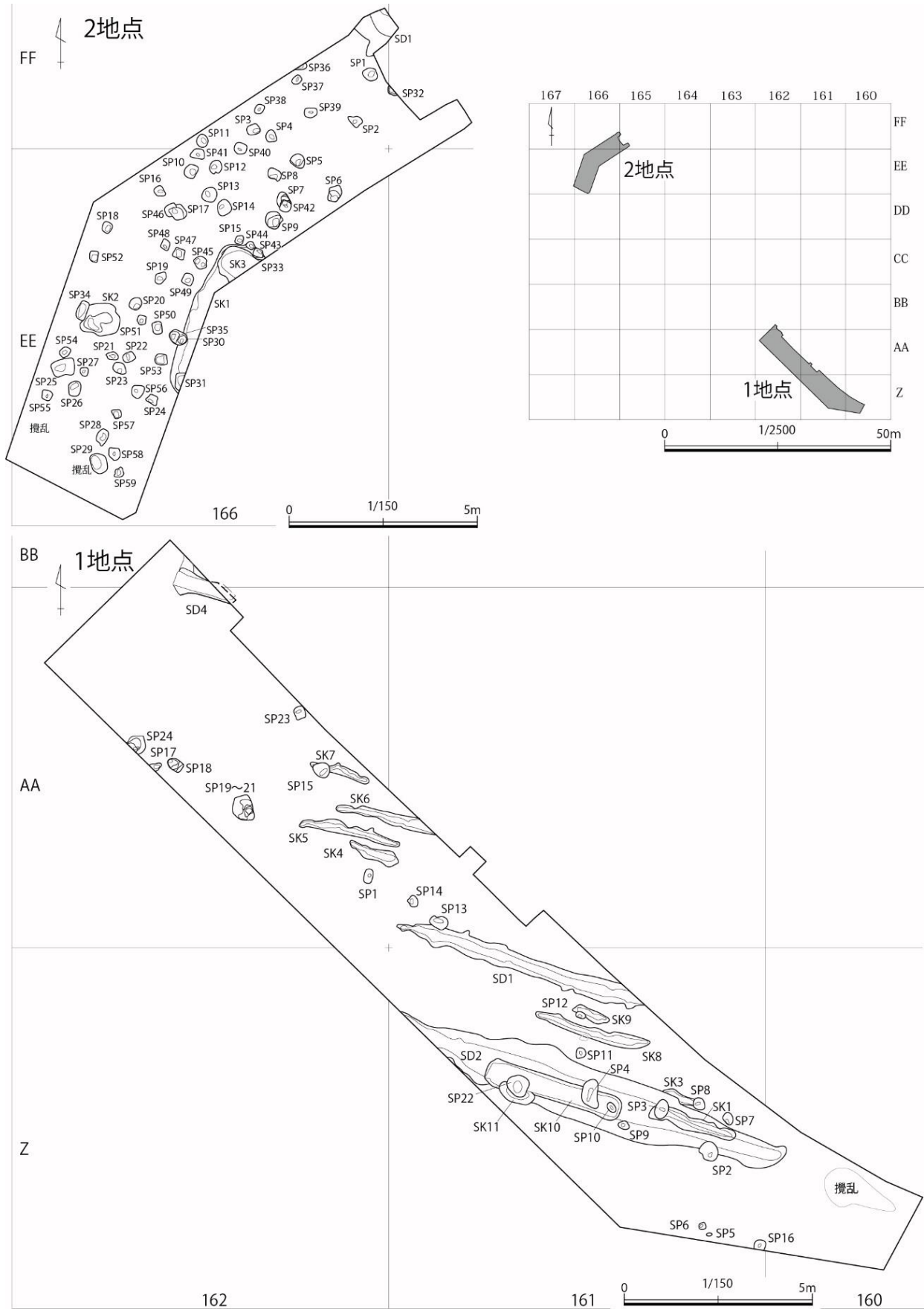
調査概要 県道22号（横浜伊勢原）の用田バイパス整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査で、今回で第9次となります。調査の結果、計2地点で中世・近世、古墳時代～奈良・平安時代、縄文時代の遺構117基、遺物14点を発見しました。その内、中世・近世では遺構100基、遺物7点と今回の調査の主体となりました。今回はこの中世・近世の調査結果について報告します。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

中世・近世 遺構は計2地点で、溝状遺構4条、土坑13基、ピット83基を確認しました。溝状遺構は4条全てがほぼ同じ方向に構築されており、当時の土地区画方向を示していると考えられます。土坑は農作物の貯蔵穴と考えられる長方形の土坑（1地点SK10）や畝間溝と考えられる溝状の土坑（1地点SK1・3～9）など畑作に関連する遺構が主体です。これらは全て溝状遺構と同じ方向に構築されています。ピットについては第2地点で59基確認し、それらは配列していることが分かりました。ピット列は間隔が不均等で、ピット自体の規模が小さいことから、掘立柱建物跡などではなく柵列と考えられます。また配列の方向は溝状遺構と同じ、あるいは直交しており、溝状遺構に同じく土地区画に関連する遺構と考えられます。遺物は全て破片で、陶磁器類が7点出土しました。皿や碗など日常品が主体ですが、舶載磁器（青磁蓮弁文^{せいじれんべんもん}）碗も1点出土しています。時期は舶載磁器が13世紀中頃～14世紀初頭、それ以外は17世紀中頃～19世紀代と推測されます。

まとめ 遺構の配置や方向、位置関係から溝状遺構・ピット列によって区画された土地内部で畑作が行われていた範囲であることが分かり、加えて遺物の時期から中世から近世に亘り、継続していたことも分かりました。過去8回の調査では、今回の調査結果に同じく、長方形の土坑や畝間溝などが主体となる耕作地のほかに、溝状遺構で区画された土地に、建物跡や井戸跡・地下式坑などが集中する屋敷地も確認されています。今回の調査により、用田大河内遺跡は、当時のいわゆる「農村」の状況を理解する上で貴重な遺跡であることを再確認できたと言えるでしょう。（土本 医）



第2図 中世・近世遺構配置図 (1/2500・1/150)

桜畑遺跡 第12地点

所在地 平塚市岡崎 2646 番 1
調査期間 平成 29 年 2 月 1 日～2 月 28 日
調査面積 96.0 m²
調査組織 (株)アーク・フィールドワークシステム
担当者 吉岡秀範・柳川清彦
調査概要 県道 63 号交通安全施設等整備工事に伴う調査で、遺跡は平塚市の北西付近に位置し、伊勢原台地西縁を舌状に南北に延びる台地上に所在します。確認した遺構は、弥生時代後期～古墳時代前期・古墳時代後期～奈良時代・中世・近世以降のもので、出土遺物は縄文土器・弥生土器・土師器でした。



第1図 遺跡位置図 (1/50,000)

近世以降 畝状遺構 3 か所を確認しました。

それらはピットが重なった溝状の掘り込みで 2～15 列認められました。覆土には宝永火山灰が含まれていることから降灰以降のものと考えられます。

中世 土坑 1 基を確認しました。規模は確認長軸 0.85m、短軸 0.75m、深さは 106 cm で、平面形は長方形と推測されます。覆土は暗褐色土主体でローム粒・褐色土と炭化物を含むもので、掘り込みの状況から地下式坑の竪坑部と推測されるものです。

古墳時代後期～奈良時代 土坑 2 基を確認しました。うち 1 基 (KN 1 号土坑) は規模が確認長軸 0.64m、短軸 0.40m、深さ 16 cm で、平面形は楕円形と推測され、覆土に焼土粒、白色粘土を含むことから竪穴住居跡の床下土坑ではないかと考えられます。遺物は、覆土中から古墳時代後期頃と考えられる土師器坏片が出土しました。

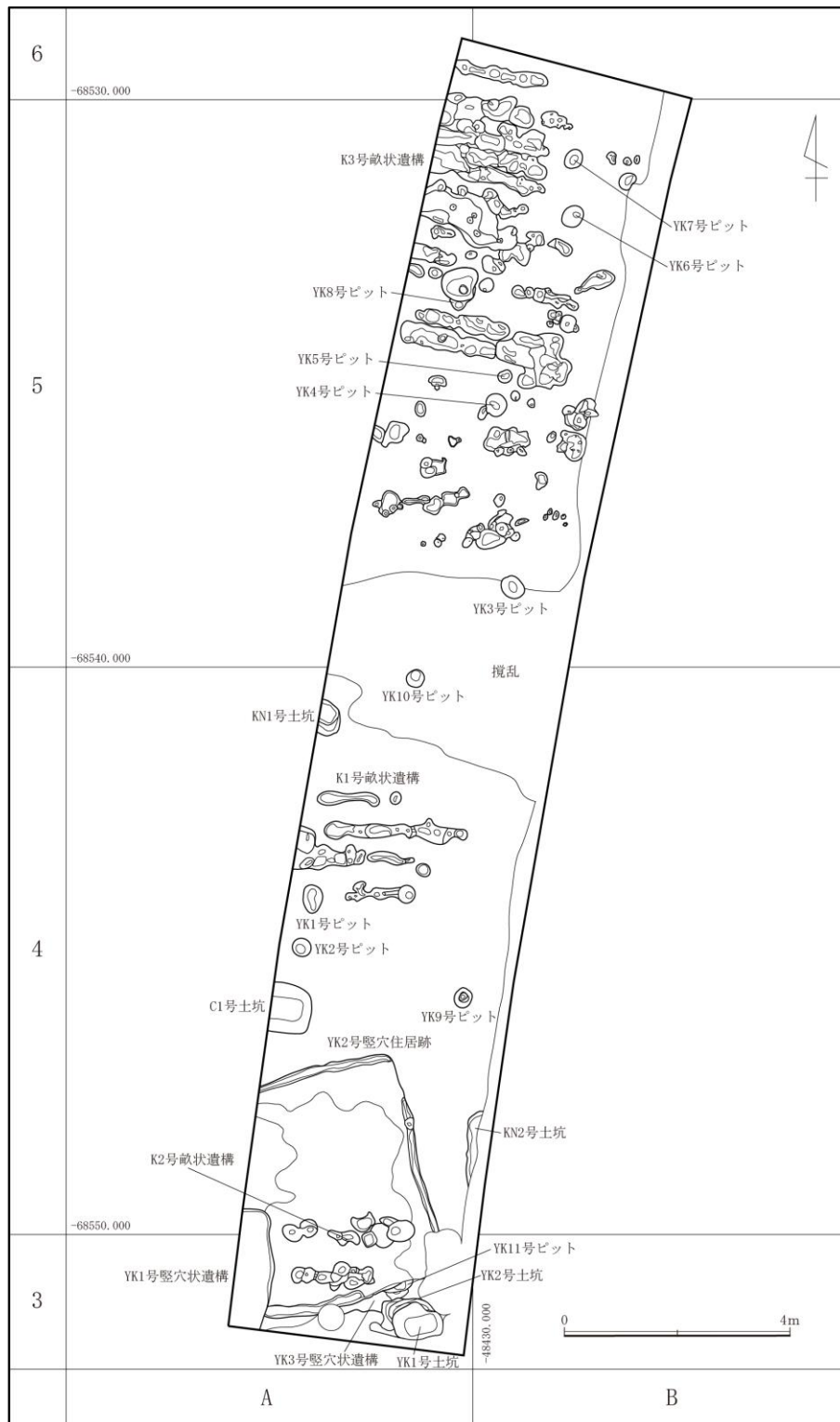
弥生時代後期～古墳時代前期 竪穴住居跡 1 軒、竪穴状遺構 2 基、土坑 2 基、ピット 11 個を確認しました。竪穴住居跡は規模が東西 4.62m、南北確認長 3.60m で、平面形は方形と推測されます。一部の壁際には周溝が認められ、床面は中央付近が硬く締っており、炉は住居中央やや南東寄り認められました。遺物は、弥生土器壺、土師器鉢・高坏・甕・台付甕・壺等が出土しました。

竪穴状遺構 (YK 1・3 号) は竪穴住居跡と考えられる遺構ですが、確認範囲が少なく、硬化面、炉、柱穴等が認められないことから竪穴状遺構としたものです。

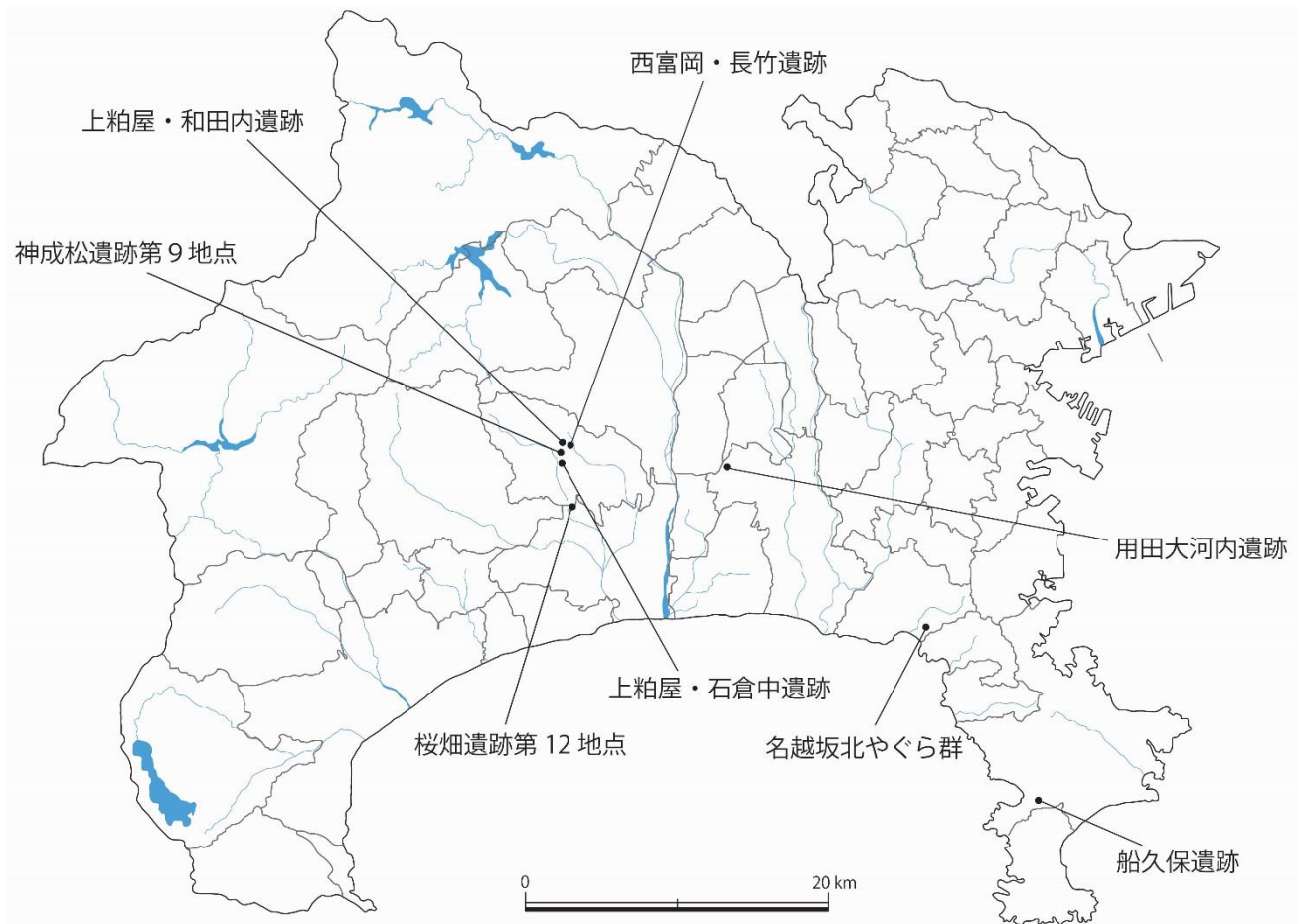
土坑は、残存規模が長軸 0.87～0.9m、短軸 0.56～0.66m で、深さは 30～41 cm、平面形は長方形で、断面形は逆台形でした。遺物は、弥生土器壺、土師器甕・小型壺・甑で、その多くは覆土中層付近から出土しました。

縄文時代 遺構は確認できませんでしたが、縄文時代早期頃の土器片が数点出土しました。

まとめ 本地点の調査は、台地上に営まれた弥生時代～古墳時代の集落の状況を知る一つの資料となるものと考えます。また、今回の調査範囲では、丘陵・台地部分で安定して見られる黒褐色土層が殆ど認められなかったことから、遺構の上部が削平され、ごく一部が残存しているに過ぎない遺構も存在すると考えられ、この要因としては後世の周辺開発に伴って土地の状況が大きく変化したためと想像されます。(吉岡秀範)



第2図 桜畑遺跡第12地点調査区全体図



今回発表の遺跡

神奈川県発掘調査成果発表会は、神奈川県が行う事業に伴って実施された発掘調査の最新の成果を一般の方々に公開し、埋蔵文化財への理解を深めていただくことを目的としています。

平成 29 年度 第 3 回考古学講座
神奈川県発掘調査成果発表会 2017

発行日 平成 29 (2017) 年 7 月 23 日
編集・発行 神奈川県教育委員会 教育局 生涯学習部 文化遺産課
中村町駐在事務所 (神奈川県埋蔵文化財センター)
〒232-0033 神奈川県横浜市南区中村町 3-191-1
TEL 045-252-8661 FAX 045-252-8663
